

非正規川柳

正と非の格差つけないあたりまえ

貝塚市職労

岩倉 一恵さん
(市立貝塚病院 中央材料室)

1997年に市立貝塚病院に看護助手として入職した岩倉さん。1999年に今の部署「中央材料室」に異動になり、今年度で20年になります。昨年11月17日に開催された「第22回パート・非常勤・ヘルパー・派遣労働者のつどい」では、岩倉さんの一句が「非正規川柳」の銀賞に選ばれました。岩倉さんに病院での仕事について、お話を聞きました。



病院運営になくてはならない「滅菌」業務

病院では、毎日の診察や治療・手術などで多くの医療機器が使われます。それらを洗浄して故障や破損がないか点検し、次に使えるように滅菌してそろえておくのが私たちの仕事です。

医療機器は、日々進歩する医学と医療技術に合わせて、洗浄や滅菌の考え方や方法が変わり、覚えることがたくさんあります。欧米では、専門職として確立しランク付けもされています。日本でも「中材業務および感染症対策研究会」のセミナーが毎年開催され、私も受講しています。また、日本医療機器学会の認定資格「滅菌技術」もあり、試験を受けて資格を取りました。

病院になくなくてはならない仕事なのでとてもやりがいを感じています。300万円する器具もあり、それらを扱う時は特に慎重になります。

教育と技術の継承がとても大切

看護師は病棟(病床)の規模で配置人数が決まっていますが、中央材料室は基準がありません。貝塚病院では、私が着任した時、嘱託3人とアルバイト1人でしか、財政問題により嘱託の退職後はアルバイトに置きかわり、今では嘱託1人とアルバイト2人です。

全国的にはほとんどの病院で業務委託されていて、現場の職員はよく入れ替わると聞いています。表に出ない業務ですが、考え方や技術を学び継承していくための「教育(研修)」が非常に大事な業務です。

欧米のように「職」として確立されていないので、資格がなくともこの仕事ができることになっていきますが、地域医療をまもるには、知識と経験のある人が長くいる必要があります。

働き続けられる労働条件を勝ち取る

私の職・中材業務にも「会計年度任用職員制度」が導入されます。正規職員と比べて15分短時間で、実際の仕事はフルタイムが必要です。今年のたたかいでめざすのは、これまでと同じ正規化ですが、絶対に「フルタイム」は勝ち取りたいです。また、嘱託の私とアルバイト2人の仕事は同じです。職場の3人全員が「フルタイム」になり、この仕事を続けたいです。看護助手もアルバイトです。私たちと同じように、「フルタイム」をめざし、病院職員として安心して働き続けられる労働条件を。正規との格差をなくし、普通に生活できる収入の実現へ、これからはがんばります。



中央材料室の入口で

2019春闘へ



旗開きは、中島副委員長の「安倍暴走政治・維新政治を終わらせよう！」の発声でしめくられました

大阪の未来を語り 政治変えるたたかいを

昨年9月、台風21号は府内全域で猛威をふるいました。写真は田尻町内の様子(上)と、岸和田市内の泉南府民センター



新年を迎えた今も、自然災害のつめ跡が各地に見られます。自然災害に対する政府や大阪府の対応の不十分さなど政治のお粗末さが露わになりました。

「選挙YEAR」の2019年、私たち働く者の切実な要求を実現するためにも、労働者・国民の立場に立った政治、憲法を守りいかに政治への転換が求められています。

職場でも、地域でも、政治を語り、大阪の未来を語り、安倍政権の暴走をストップさせ、維新政治による自治体つぶしをストップさせる年にしましょう。